

絆とやすらぎの里粟井村

巨勢元気村の方達と交流会(六月十六日)



巨勢元気村(巨勢活性化推進協議会)で活躍しておられる会員との交流会をもちました。「今井忠会長」美作市からは、担当課の神浦、唐内両氏、粟井村からは、婦人部代表、宿泊部代表、生活交流グループ代表、村創りの会の方達10名でした。目的は①調理室の見学②廃校舎の利用、③親睦でした。
今井会長はじめみなさんに歓迎して頂きました。校舎利用では、5年後10年後を見据えた取り組みが形になり

つつあります。24時訪問診療など、日本原病院(森医院長)との協議も続いています。3年前の粟井地区を見るようでした。取り組みも粟井地区総合振興計画(粟井プロジェクト)とほぼ同じです。
これからの交流を密にし、互いに協力していく約束をして閉会しました。
粟井小調理室も設計業者が決まり、設計に取りかかりました。
土曜日カフェ 2次避難所 囲碁ボール室 さおり織り



買い物支援室

子育て支援室

図書カフェ

ナイター練習

国家公務員自治体業務体験 (六月十八日)

「国家公務員自治体業務体験」が美作市であり、その中の一日が粟井地区でありました。国土交通省の松葉さん、文部科学省の三國屋さん、農林水産省の菊地原さんの3名が来られました。
粟井地区では、能登香の家で昼食、粟井地区の取り組みの概要説明、地区内の施設見学、春日座での舞台体験、最後に粟井小学校の校内見学と村創りの会会員との意見交換でした。
粟井小学校は社会教育施設として今後何が出来るのか、ひとつの手がかりとなる一日でした。



能登香の家のいりりて昼食
周辺の散策、施設巡りの合間のティータイム(花工房)

春日歌舞伎保存会会長の説明と、副会長の演技指導。最後は、村創りの会との意見交換。



地域で子どもを守る

江見ネット(六月十九日)

粟井小学校の閉校に伴い「粟井学区の子どもの安全を守るネットワーク」から江見小学校学区の「地域で子どもを守る江見ネット」へと所属が変わりました。しかし、今まで以上に「粟井つ子」を見守ることに変わりはありません。この日は、役員選出と活動計画が決まりました。
役員に粟井駐在所の岡本巡査も加えて頂くよう要請しました。子どもの安全が主目標です。



勝英農業協同組合

粟井総代会(六月二十日)

旧粟井小学校会議室にて、今年度3回目の「勝英・粟井総代会」を開き、粟井店舗とガソリンスタンドの取り扱いについて協議しました。決定事項はありませんが、今後の進め方として、◎粟井店舗とガソリンスタンドは、何らかの形で残していく。いろいろな団体で協議していく。以上2点が申し合わせ事項として確認されました。(粟井総代は13人です。)



粟井スポーツ振興会 学校の環境整備作業

【六月二十八日】

梅雨の合間をぬって、粟井スポーツ振興会主催で、粟井小学校環境整備作業が行われました。花壇や植え込みの草むしり、庭木の剪定、法面の草刈り、校庭への除草剤散布、プランターの片付け、樹木の伐採等様々な作業がなされました。参加者の中で特に目を引いたのが、高齢者(高齢者)の方です。多くの方が、学校を我が家のように気に掛けて下さっています。閉校前の関心が一過性のものではなかったことを確信した貴重な一日でした。言は少ないが行動で表す、こんな律儀で共助・互助を重んじる方々により粟井地区は支えられています。



勝英農業協同組合(コア勝英) 第十六回通常総代会

【六月二十八日】

五〇〇人を超える、勝英農業協同組合の全総代が一堂に会する、表記の会が、勝英支店2階大会議室で行われました。農協改革が始まる節目の年でもあり、その動向が注目されました。粟井地区の最大の痛手は、今年度から3年間、粟井地区に理事がいなかったことです。今更ながら、理事が抜けた穴は大きく、理事の役割の大きかった事を痛感します。
今回の総代会もほぼ例年通りでしたが、中盤以降、農協の本質に関わる論議がなされたことが、農協が先行き不透明な中、唯一の救いでした。
粟井地区に関わることは、

●平成26年度事業報告の中で、部門別損益計算書(生活その他事業内訳)の、生活事業所の約5千万、生活店舗約3千万、給油所約5千万の赤字です。生活店舗は、英北、粟井、勝田吉野の3店舗です。
●平成27年度事業計画では、経営管理方針の経営管理計画の重点事項として、
①「必要利益」を軸とした経営計画の徹底と、常態的赤字部門となっている事業所・店舗等の再編整備にとりくみます。と云う頂です。

